

晩烏敏の年譜

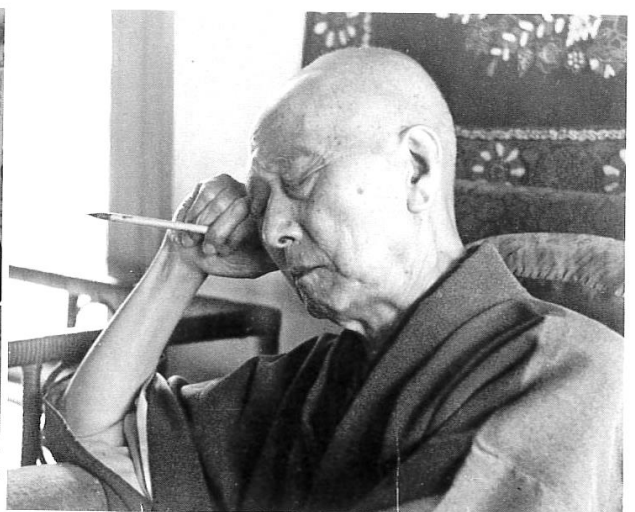
- 一八七七（明治一〇）年 七月十二日、石川郡北安田村（現 松任市北安田町）真宗大谷派「明達寺」に長男として誕生。敏と命名される。
- 一八八七（明治二〇）年 父、晩烏依念没す。
- 一八九七（明治三〇）年 「真宗仮名聖教」を通じて「歎異鈔」にあう。
- 一九〇〇（明治三三）年 東京の清沢満之の膝下に集い、佐々木月樵・多田鼎らとともに浩々洞を開く。
- 一九〇一（明治三四）年 浩々洞より月刊紙「精神界」発刊。
- 一九〇二（明治三五）年 山田房子と結婚。
- 一九〇三（明治三六）年 「歎異鈔を読む」を五十五回にわたり精神界に連載。この頃より全国各地で講演。師清沢満之没す。浩々洞代表として活躍。
- 一九一〇（明治四三）年 明達寺第一回夏期講習会開催。以後、毎年八月に開催する。
- 一九一二（明治四五）年 明治天皇崩御に接し、五十日間の喪に入る。
- 一九一三（大正 二）年 妻房子没す。この年、思想崩壊し凋落の年となる。
- 一九一四（大正 三）年 今川總子と結婚。この年、蘇生の年となる。
- 一九一五（大正 四）年 浩々洞代表を辞し明達寺に帰る。
- 一九二〇（大正 九）年 蘇生の様を記した告白書「更生の前後」刊行。
- 一九二二（大正一一）年 個人出版社香草舎より月刊誌「薬王樹」発刊。
- 一九三二（昭和 七）年 この年より日本精神を提唱。
- 一九三五（昭和一〇）年 大報恩会厳修と大日本文教院設立を志願。
- 一九三六（昭和一一）年 大報恩会を一週間に渡り厳修。
- 一九四七（昭和二二）年 晩年の思想を貫く「皆当往生」を発表。蔵書五万冊余を金沢大学へ晩烏文庫として寄贈。
- 一九五〇（昭和二五）年
- 一九五一（昭和二六）年 東本願寺宗務総長に就任。
- 一九五二（昭和二七）年 宗務総長を辞任し、宗務顧問となる。
- 一九五四（昭和二九）年 清沢満之像を安置する臘扇堂を完成する。八月二十七日没す。（行年七十八歳）



インド佛蹟巡拝の敏（昭和元年）



浩々洞三羽鳥（明治 35 年）



77 歳誕生日の敏（昭和 29 年）